

第6回 野幌地区都市緑地等整備検討委員会会議録(要点筆記)

日時：平成29年4月27日(木) 18時30分～20時30分
場所：野幌公民館研修室4号
出席委員：千里政文委員長、宮木雅美副委員長、阿部実委員、表亜由美委員、
岩村ヒロ子委員、梶野雅裕委員、三木昇委員、奈良幸則委員(計8名)
事務局：顔づくり推進室佐藤室長、街路整備課藤村課長、佐藤係長、佐藤主任、
上野技師、田中技師、都市建設課公園係上田係長、北海道造園設計(株)及川氏、
佐藤氏

資料

資料1：「野幌地区都市緑地等における整備・保全の方針及びゾーニング計画(案)」に対する意見募集の結果と市の考え方、パブリックコメント実施概要
資料2：野幌地区都市緑地等整備基本構想(案)
平成29年5月 野幌地区都市緑地等整備検討委員会
資料3：野幌地区都市緑地等整備に関する提言書(案)

会議概要

1 開会

○事務局

開会あいさつ。委員9名中8名参加の報告。
佐藤室長から事務局の異動者の紹介。

2 パブリックコメント実施結果について

○千里委員長

篠田前課長逝去に対し黙とう後、議事に入る。
パブリックコメントの実施結果について事務局より説明を願う。

○事務局

- ・資料の確認
- ・パブリックコメントの実施概要と結果の報告

○千里委員長

事務局の説明について何か質問、意見、修正等加えるところはないかご意見を頂きたい。
5人の市民から32件の意見があり、鉄道林に関して、特に思い入れがあるように感じた。その思いをこれからどのように扱っていくのか。木を残したいという意見も当然であり、この委員会の中でも議論されて来た。安全性のことも含めて今の形に進んできたので、思いとしては市民と同様である。現状に関して、樹木を診断した後には若干変わることもあるが、樹木の状態としては決して良い状態ではないということも明確になってきた。

○三木委員

鉄道林に対して思い入れがある方がいらっしゃることを改めて認識し感心した。
ただ、少し誤解があると思われるのは、今は鉄道防風林としての機能を果たさなくてもいいということを解っていない。我々の説明が丁寧でなかったのか。大麻の方から続いている鉄道防風林は歴史的にも意味があつて、少しでも残して行きたいという思いがあるのは理解できるが、防風林の効果はもう必要ないことを丁寧に言った方が良い。それで、次の

ステージとして、屯田兵の見た林はどんなものだったのか、という方向へ導く説明をした方がいい。

もう一つは、これだけ鉄道防風林への思いがあるのだから、江別市としてもヨーロッパトウヒの鉄道林を保全していかないといけない。本来はJRの仕事であるけれど、江別市としても、ヨーロッパトウヒの鉄道林の景観を郷土景観とし管理しなければならないと思う。

○千里委員長

今の鉄道防風林の役割、鉄道林の林内の状態、枯れ上がり等については、ここだけではなく、鉄道林全体に言える問題である。もしかすると手遅れかも知れないという状態で、何もしなければそのまま枯れ上がりが進んでしまう林である。この委員会でできることは市民から要望があったということ記録に残すことであり、是非、鉄道防風林について考える機会をつくることを江別市の方でも検討していただきたい。

○三木委員

市長さんにレクチャーしていただきたい。

○千里委員長

私も江別市民なので（鉄道防風林の）思い入れはあるが、安全ということも必要である。今何もしなければ枯れるだけなので、残念ではあるが木をある程度伐採し、再生していく必要性を感じているので、それを市民に丁寧に説明していく必要がある。

○宮木副委員長

鉄道防風林と言うと針葉樹の林というイメージがあるが、広葉樹でも防風林としての効果はある。農村地帯ではヤチダモの防雪林・防風林がたくさんある。必ずしも針葉樹がいいということではない。イメージとしての針葉樹が定着しているようだが、現場は更新して新しい林に変えていく時期に来ている。鉄道防風林の文化景観としての部分を大切にしながら、今の時代に合った森にして行くことが大事だと思う。

19番で生物多様性についての意見があったが、生物多様性の保全ということで世界的に条約等が定められて、日本でも法律等ができてきている。この意見では生物多様性に対して若干誤解があるようで、生物多様性というのはその地域の特徴ある自然を残そうというもので、外からいろいろなものを持ってきて植えるというものではない。その地域独自の生物の繋がりを保護していこうと言う趣旨なので、この委員会で検討しているかつての自然に戻そうとすることは生物多様性の趣旨と同じである。そのことを（回答には）強調された方がいいと思う。江別市での生物多様性の保全についての取り組みが問われている。行政的には緑化の部局で、都市緑化の部門でも生物多様性に貢献していることを説明された方がいいのではないか。

○千里委員長

江別市ではこれについて対応しているか。取り組みとか。

○事務局

緑の基本計画というのがあり、市の環境サイドで作った計画がある。具体的な取り組みについては、本日資料がないためお答えできない。

○千里委員長

是非この事業を通じて行政も一丸となって横のつながりを広げてやっていただきたいと思う。

18番に関連して、今実際調査も始めていて北海道固有の生物が生息している可能性が高いと書いているが、もう（調査で）見つかったので、生存しているなどの表現にしてもよいのではないか。

○事務局

回答をつくった時期と調査時期が若干のずれがあったためこのような回答になった。

○千里委員長

これから出すので、調査の進捗に合わせて解ったところは、言っておいた方がよい。

○三木委員

我々がしようとしていることは、「非常に時間がかかるということである」というのが説明しきれないように感じる。ヨーロツパトウヒを切ると、何も生えていないように感じる。切って世代交代しよう。その世代交代も江別本来の姿にして行こうとしている。元々あった森に再生して行きたいということなのだが、それにはとても時間がかかる。そのことを伝えておかないと、切ってから何しているんだってことになりかねない。その部分も丁寧に説明しないとだめだと思う。

20番について、冬期ロータリー車でどンドン雪を飛ばすので、大麻の鉄道防風林もかなり損傷している。この問題ではないが、緑に意識を持って見ている市民がいることを、意識してほしい。

○千里委員長

実際、市民は気にして見ている。気にはしているが、鉄道防風林は立ち入り禁止の区域の為手を出せる場所ではない。

○阿部実委員

特に近所の方は、整備すると雪を捨てやすいので、入りこむ可能性がある。

ロータリー車の問題は、土木事務所の方に伝えると、奥まで飛ばさないようにできるのではないか。むしろ市民がいい雪捨て場ができたと感じるかもしれない。

○千里委員長

ロータリー車は角度を気にすれば対処できると思うが、道路の維持管理や JR にその意識があるかどうか。

○岩村委員

防風林がきれいでないことにも原因ある。ゴミなどもきれいにしていれば捨てない。

○三木委員

確かに花壇にしている町内会のところはきれいにしている。

○奈良委員

10番の意見は、協働ではなく、市役所が率先すべきだと言っている。これだけのメニューを顔づくり推進室、建設部だけでできるものだろうか、環境の話だったり、協働のことだったり。答え方としては「市民と協働」と答えているが、質問と答えが合っているのか疑問である。協働という言葉の使い方が違うような気がする。

○千里委員長

今、色々な場面で行っているが、市民だけでできるかというとなかなか難しい。リーダーみたいな人がいて、引っ張っていくこともあるかもしれないが、そこを応援する所が無いとその活動は止まってしまう。この中でも、子供達とか大学生が参加する仕組みづくり等が書かれているが、実際にはどうするという具体性が乏しい。だから市の方で担うべきという言葉が出て来たのかも。基本計画を考えることがこの委員会の目的だと思うが、ここから実際に公園ができて、使うとか維持するという段階でまた違う部署になるのか。その辺の仕組みが必要だと思う。

○三木委員

この件に関しては、酪農学園と市が連携する予算を出してくれれば、先が見えるので安心でもある。補助採択されないとだめなので市の方としては酪農学園の申し出を採択してい

ただきたいと思う。そうするとこの欄の回答となるのではないかと思う。

○千里委員長

11番のところも、自治会とか学校、団体を含めと書いているので、そういう意味では酪農学園が加わることは非常に心強いが、大学だけにまる投げするのではなくて、市の方が協働意識を持って一緒にやるのが大事である。作ったあとの学校、企業や市民との関わりなどの市のサポートが重要である。横のつながりを含めて担当者が代わっても継続する市役所内の仕組みづくりを含めて、説得力のある文章で書いてもらいたい。「協働という名の市民に丸投げ」と思われたいような書き方をしてほしい。具体的にどう書いたら良いのかは非常に難しい。

○三木委員

我われ市民ももっと参加しなければならない。江別もエルムの町なので、EBRIの裏にもっとハルニレ植えるとか、エルムの街江別ということでアイデアを出してみんなと一緒にやりたい。

○阿部委員

住民や自治会とか書かれると、本当にやるのかと言われる。

○千里委員長

自治会も高齢化が進み大変である。

○岩村委員

現役で勤めている人は大変。

○阿部委員

やる人はたいてい高齢者ばかり。

○千里委員長

キーになる人が必要。酪農学園にすべて頼ると大学も大変だが、幸い農業や樹木などの専門分野が江別にあるのは心強い。

書き方は難しいと思うが、そのニュアンスは市の方も十分感じていると思うので、お願いしたい。

他に大きく直した方が良いというところは無いか。

○岩村委員

計画地の中はきれいに整備されるイメージだが、旧鉄道敷地部分は整備されるのか。

○千里委員長

高架はJRの所有地であるが、旧線路敷地は今回計画の中に含まれるのか。

○事務局

この敷地は東西のグリーンモールということで整備される。

高架下の部分についてはJRで利用予定が無いのであれば、JRと協議を進めていく中で利用について打診することは可能なので、今後の協議の中ではそのような話もしていきたい。

○千里委員長

今は高架下が駐車場と駐輪場であるが、折角都市緑地と隣接するのであれば、安全性等を含めて、JRとも話し合いが必要である。EBRIについても建物は直したけれど周りも含めて整備が必要である。あの辺が景観的に良くなると市の顔にもっとなると思う。都市緑地も民間施設も含めて良い関係が作れることを望んでいる。

では、パブリックコメントの回答に関しては大きな変更は無いが、いくつかの小さな修正をしていただいて、委員の皆様を確認していただく。

次は提言書について、事務局の方から説明を願う。

3. 野幌地区都市緑地等整備に関する提言書について

○事務局

- ・ 提言書の内容について説明
- ・ 野幌地区都市緑地等整備基本構想（案）についての説明

○千里委員長

6-1 のところで、3) が抜けているので修正をお願いします。
今の説明について委員の皆様の意見を求める。

○表委員

5-1 で、(1) 緑に関して 項目内容が、切る⇒切る⇒植える⇒再生⇒残して⇒再生になっており、順番が乱れ、繰り返しのようになっていないか。もっとすっきりとした並べ替えと、それにより言葉が変わってくるのではないか。もう少し同じイメージの流れで行った方がいいのではないか。

(2) 生物に関して、と (3) 施設に関しての両方にペット遺棄に関する記述がある。両方にこの言葉を入れる必要があるのか。同じ言葉ではなくて違う形で施設に関する配慮を謳った方がいいのではないか。

(4) の地域住民という言葉は市民を指すのか。それとも野幌地区の地域住民という狭いエリアのことを言っているのか。あえて狭くしなくてもいいと思う。

6 の年次計画について、(2) の本構想の「本」とは何を指すのか。

○事務局

基本構想を指す。

○表委員

基本構想で行けば流れは解る。

7) 維持管理にも「地域の住民」があって、2) の「地域にお住まいの～」は解るが、7) の「地域の住民」は変えた方がいいと思う。

○千里委員長

表委員の意見で 5-1 について、順番を見直した方がいいのでは、という意見について、最初伐採をするというところから始まって、切るイメージが強いが、実際には育てていくこと、森が再生するまでには時間がかかることが分かりにくいのではないか。ただ切るだけではないというところを解りやすく順番を含めてもう一度調整していただきたい。

○奈良委員

この都市緑地等基本構想はグリーンモールを含むと考えていいのか。

○事務局

都市緑地等はグリーンモールを含む。

○表委員

でも分かりづらい。

○奈良委員

一番初めの委員会での計画地と現状の課題というところでは、最初はグリーンモールが入っていなかったように記憶している。

○事務局

第一回委員会の 2 枚目の資料で「グリーンモールについて」がある。

○奈良委員

同じような絵なのに描き方が違うと思ったので。了解した。

○千里委員長

ここのグリーンモールと言っているのは、都市緑地の前のグリーンモールのことか。

○事務局

都市緑地の前の南側の旧鉄道敷地の部分。

○奈良委員

都市緑地に沿って、野幌の駅近くまで含むと考えてよいか。

○事務局

野幌の駅付近まで東西グリーンモールと位置づけしている。駅近辺の部分についてはすでに整備済みの区間になっている。今回の委員会で議論いただいているのは、旭通から都市緑地に付随する東西グリーンモールとして位置付けをしている。

○千里委員長

一部駐車場になっているようであるが、グリーンモールが途切れることは無いか。

○事務局

途切れることはない。

○事務局

今回の構想の範囲は、2-1の図面に示しているグリーンモールの部分。

○表委員

市民はここまで詳しく聞く機会が無いので、この都市緑地の整備の中にもそこを解りやすくした方がいい。林の中が対象地というイメージしかできなく、前から読まないとならないのというのでは困る。都市緑地の整備にグリーンモールが入っていることを解るようにしてもらいたい。

○奈良委員

2-3の図でグリーンモール（予定）と書いている。

○千里委員長

私もちょっと誤解していた部分があったかと思うが、今回の資料では2-1の図に示されている。

○奈良委員

整備のスケジュールまで出ているので、整備範囲もしっかり整理しておかないといけない。

○岩村委員

グリーンモールの幅を書いているのはどこかにあるか。

○千里委員長

以前の線路跡の部分。砂利が敷いてある。

○表委員

それを含めて基本構想ということでもいいか。

○事務局

少しわかりづらいが、都市緑地等にそれが含んでいるという考えである。

○表委員

5-1は都市緑地の整備となっている。（グリーンモールは含まれていない）

○事務局

都市緑地と言うと、（都市緑地だけかという）語弊があるので等を付けてグリーンモールを含ませている。

○奈良委員

スケジュールは都市緑地のみということか。6の年次計画にはグリーンモールが含まれているのか。

○事務局

すべて含んでいる。

○千里委員長

実際グリーンモールの計画は、いつ頃やるのかはこの資料からは解らない。グリーンモールは都市緑地が完成してから整備するのか、あるいはある程度のところで整備に入るのか。

○事務局

都市緑地とグリーンモールは同年次の期間内の整備を考えている。グリーンモールについても平成 31 年度までの整備を考えている。補助事業の関係もあるが、整備年次は平成 31 年度までと考えている。

○三木委員

グリーンモールについてこの委員会で、江別だからレンガを使って、モニュメントがあった方がいい等、色々な話が出ていたが、それに対しては書いてあるか。

○事務局

今日の資料の 4-7 にグリーンモールの説明がある。

○三木委員

書き方が消極的である。もうちょっと「江別らしく」というニュアンスが足りない。レンガとは書いてあるけど、モニュメントは採用されたのか。

○宮木副委員長

オブジェ等の設置も検討とある。

○千里委員長

個々の内容は実施設計の中でより具体的になっていくということだと思う。

今回 5-1 から中心に説明されているが、今まで話したことも当然反映されるという捉え方で良いと思う。

今までのことをまとめたことについて、5-1 は非常に短くしか書いていないので、これまで検討したことがうまく伝わらない部分もあると思う。

○宮木副委員長

5-1 (1) の最初の 2 項目は、危険と過密なということで同じ意味のことなので一つにしてもいいと思う。人工鉄道林の危険木や成長の見込めない針葉樹は安全管理の面から伐採するとしてまとめると良い。

○千里委員長

そうすとなぜ切るのかということがより具体的になる。

○三木委員

次の項目の 4~5m の自生種（造園木）とあるが、生物多様性からすると宮木委員としては許容するか。

○宮木副委員長

造園木というのは管理して成長させたという意味で表現していると思うが、誤解を招く可能性がある。造園木との表記は特にいらぬ。自生種とあるのでそれでよい。

○三木委員

種の出所身体を明らかにできるよう、宮木先生のところで 4~5m のものを生産してもらわないといけない。

○宮木副委員長

それは成長によって 3m になるかもしれない。年が経てば大きくなるから、あまり 4~5m と書く必要もない。

○三木委員

生物多様性にこだわるなら、宮木先生のところの苗、野幌森林公園の種のものでそれを使うべきだと思う。

○宮木副委員長

野幌地域の生産樹木を使うというのものもある。

○三木委員

種というより産地。野幌産、江別市産に限るというこだわりがあると良い。

○千里委員長

それはいいと思うが、どれだけ揃うものなのか解らない。

○三木委員

造園屋さんから買ってこないと、足りないかもしれない。宮木先生のところで大きくなってから植えるということも考えてはどうか。

○宮木副委員長

実際に植栽するまで3年後ぐらい。平成31年まであるので、高さにこだわらなければ色々な樹種が揃うかもしれない。

○表委員

構想なのであんまりガチガチにはしない方がいいのではないかな。

○千里委員長、

具体的な数字ではなく、長期的にみんなで育てていくということで。産地だけ江別産と書くか。専門の皆さんはどう思われるか。

○宮木副委員長

以前は、すぐには大きくならないので、造園木を導入してもしょうがないという話だったが、たぶん4~5mにこだわらなければ、入手可能だと思う。文章としては自生種くらいにしておいた方がいい。

○表委員

この文章としては、早期に形成するため植栽することが第一義で自生種とかよりも早期であることがメインとなる。自生種にこだわるのは次の「植生再生ゾーン」でのことではないかな。

○奈良委員

ゾーニングとしてはそう分けている。

○三木委員

そうではあるが、「集いの広場ゾーン」に使う樹種についても、生物多様性という意見が市民から出たので、それならば徹底した方がいいかと。

○表委員

ゾーンを分けなくても良いのではないかな。

○千里委員長

実際読んでみると、「安全な活動の場を早期に形成する」とあるが、活動の場を早期に形成するために4~5mの自生種を植えるということになっているのではないかな。

○表委員

切った後は、早めに木を植えて整える。ということはこちらでは言いたい。

○阿部委員

広場にして、人が集まってくるから安全という言葉を入れたと思う。

○千里委員長

安全と早期というのが言葉として合っていない。

○表委員

「集いの広場ゾーン」には植栽する。植栽するとしたら、自生種とか江別産とか産地にこだわった樹種で植栽したいのが皆さんの見解かな。

○奈良委員

そう考えると、宮木先生のところで育てた苗は、「植生再生ゾーン」で使うことを前提で考えて、「集いの広場ゾーン」は4-1でも造園的な手法により在来の樹木を主体にと書いているので、そこはあまりこだわらなくてもいいと思う。

○表委員

そこに入ると文章的に苦しい。三木委員の意見を「植生再生ゾーン」に持ってきて言うのならいいけれど、「集いの広場ゾーン」で言うのは苦しいかもしれない。

○千里委員長

では、どのような文章にするか。

○三木委員

ここは早期に公園らしくするために大きな木を植えるということなら、そう書いた方がいいのではないかと。公園として早期に利用したい場なので、公園らしくするために、大きめの木を植えるという主旨であるため。

○千里委員長

4~5mとの記述はいらないのであれば、早期に形成するという表現はどうか。

○宮木副委員長

自生種の高木とか。

○千里委員長

4~5mを取って、自生種の高木とすることでよいか。

5-3の地域住民という言葉はどうか。実際に使うのは地域住民だけではなくて、市民と市外から来る人もあるので、地域住民に固定しないでもっと広くした方がいい。

○宮木副委員長

市民と言うと一般に江別市民だけにとらわれた意味ではない。

○千里委員長

市民、子どもたち、大学、企業含めと。市民で良いと思う。

○表委員

都市緑地の整備のところグリーンモールの項目を一つ入れていただけるといい。

○千里委員長

グリーンモールの文章追加もお願いしたい。都市緑地とグリーンモールが一体ということが解るように書いてあると良い。

○三木委員

再生の森ゾーンの着手に向けて、針葉樹を切ることになるが、この時点でナナカマド等（実生）がたくさん出て一斉に伸び出す。整備直後にススキ、ヤマハギと書いているがこうはならないだろう。模式図ではあるが、これとは違った姿にはなる。

○千里委員長

この図を直した方がいいという意見か。

○三木委員

みなさんが了解であれば、模式図なのでということでもいいと思うが、実際はこの通りにはならない。

○千里委員長

実際に生物調査しているのを見て、我々がイメージしていたのとは若干違うところがあった。例えば鉄道林の残し方だが、ある程度の樹木の群として残すことや、池ではないけれど水がたまっている場所があったことなど、想定していた通りにはならないと思う。今の三木委員の意見も、今回見てみて夏には解らなかつたことが見えてきて、若干の修正が必

要だろうと思う。直せるものであれば対応してほしい。

○宮木副委員長

再生の森ゾーンの整備直後で、シラカバ・ヤナギ類の導入、ススキ・ヤマハギ等の導入となっているのはおかしい。

○千里委員長

最初思っていたことよりもいいこと。例えば（実生が）生えてきていることが解って、それを利用するという事。

○表委員

それが面白い。自然で。

○千里委員長

イメージ図に記載のない樹木が生えたからといって、それを切るということにはならない。そうでなければこのままでもいいのではないかと思う。

○宮木副委員長

再生の森ゾーンの整備直後で、シラカバ・ヤナギ類の導入、ススキ・ヤマハギ等の導入となっているのはふさわしくないので、在来植生の繁茂とか成長とか、ササも含めて侵入とかに修正した方がいい。

○千里委員長

パブリックコメントに出しているものを修正することは可能か。違う場面で修正した方がいいのか。これは予想であってこの通りにはならないという前提ではあるが。

○宮木副委員長

明らかに間違いなので、修正しておいた方がいいと思う。

○事務局

パブリックコメントはパブリックコメントで市民の方の意見を聞いたが、その意見を踏まえて委員の皆様にご意見をいただいている。パブリックコメントがすべてではなく、それを踏まえて委員の皆さんが修正すべきだということであれば修正できる。

○千里委員長

ではこの部分は専門の方でないと解らない部分なので、ご指示いただきたい。

○宮木副委員長

再生の森ゾーンの整備直後で、ススキ・ヤマハギ等の導入をササや在来植生の侵入に、シラカバ・ヤナギ類の導入を侵入に直す。

○表委員

<最終イメージ 30 年後>となっているが、全部がイメージ図と理解している。あえて 30 年後だけがイメージなのではなくて、これ自体がイメージ図であるということにしてはどうか。

○事務局

5-1 (1) のところで（後項森林再生のイメージ参照）となっているので、図のタイトルもイメージとする。

○千里委員長

では、5-2 にイメージ図とわかるようにタイトルをつける。30 年後から最終イメージを削除し、30 年後とする。

事務局の方で修正お願いします。

次に提言書について。

○三木委員

時間をかけて再生するという事を、取り立てて入れてほしい。例えば方針の 2 の 1 行目

で、原初的な樹林で時間をかけて再生することを目標とする。これは、都市緑地をつくって出来上がりということではないことから。そこが従来の都市公園とは違う。

○千里委員長

今、三木委員が言われた、時間をかけて再生するということを付け加えていただきたい。

○表委員

同じ項目で、野幌地区の開拓以前とわざわざ謳っている。これは野幌地区にこだわることなのか。

○三木委員

江別全体として考えなくてはいけない。

○表委員

江別の開拓以前の方がよい。

○千里委員長

「野幌地区の…」となっているところを江別に置き換えるということでもまとめてほしい。

○表委員

前のページの4段落目、自転車ネットワークをではなくがではないか。

方針3の4項目に地域の子どもたちについても修正願いたい。

○千里委員長

地域を市民に統一したほうが良い。

○表委員

方針2の2,3項目は伐採と伐採で同じ意味。一つの項目にすべき。

○千里委員長

では提言書の方は今のご指摘のところを直していただきたい。

再度、委員会を開かなくても、微調整ということで、直していただきたい。

○奈良委員

都市中にある貴重な緑ということであるが、もう少し歴史的背景が基本構想の背景・位置づけの中に書かれた方がよい。自然であるからいいと言うような簡単なものではなくて、野幌丘陵の一番端に位置していたとか、もう少し歴史的なことを書いた方が、ああこんな場所だったということが解るような気がする。

○千里委員長

委員会の中でも場所が解るような話は出ていた。実施設計をして行く中で、案内板とか土地のいわれとか、自生しているものとかが解るようなものが作られるように、文章がどこかに入っているか、あるいは前の方の修正が大変であれば5の整備の中に入れてもらうとかできないか。

○奈良委員

今の提言書の訂正と同じことが3・2整備・保全方針とリンクしているので修正が必要。

○千里委員長

統一して修正していただきたい。

○事務局

ご指摘あった部分で、同じ表現をしているところがあるので、すべて修正する。

○千里委員長

地域や野幌を指してしまう言葉などがあれば修正お願いしたい。

では最後に事務局からスケジュール等説明願います。

4 その他

○事務局

- ・今後のスケジュールについて説明
- ・提言書の提出について説明

5 閉会